

# HIDAMON Vol.5

～飛騨の隠れた魅力を発掘～

この人にインタビュー!

株式会社  
ありがとうファーム  
雲英 顕一さん  
神岡町西1302  
☎0578-82-3419



▲大自然の中にある農園。他の地域と比較しても飛騨のミネラル豊富な水は貴重だという。



▲飛騨産の黒大豆を使った「黒てん味噌」は、生のキュウリやニンジンに付けて食べると絶品。



▲無農薬の「黒田五寸にんじん」。濃い野菜が雪の下で熟成され、さらに美味しくなるという。

第5回目は、神岡町西にある『ありがとうファーム』をご紹介します。社長の雲英顕一（きりけんいち）さんにお話を伺った。

ありがとうファームでは、野菜や自家製の味噌などを栽培から販売まで一貫して行っており、販路は都会の高級スーパー、個人客、地元のスーパー等とさまざま。ありがとうファームの野菜は味が濃く美味しい、元気が出ると、全国にファンも多い。今回はファンが増えつつある『ありがとうファーム』のブランドの秘密について迫る。

雲英さんは、東京で生まれ育ち、会社員で勤めながら週末農業をしていた。その後退職し、千葉県で就農。2011年の震災を機に有機農業を継続するため、飛騨に移住した。

雲英さんの農業の原点は、世界の環境と飢餓問題。大きなテーマの中で自分ができることを考え、辿り着いたのが有機農業だった。身近にある化学物質の過剰摂取が原因で体や心の不調を抱えている人が多いのを感じ、「有機栽培で美味しいだけでなく、抗酸化力や栄養価が高く病気になるににくいといった科学的な裏付けも示せるような作物を目指している。『食で幸せを感じたい。病気にはなりたくない』と、思っている方は多い。そんな方に喜んで食べていただけるものを作りたい」と語る。

また、雲英さんはNPO法人アースアズマザーの農と福祉で持続可能な地域コミュニティを創造する理念に共鳴し、さまざまな活動を行っている。会社の元事務所はまるで古民家カフェのような空間。巨大な木の根こやさまざまな本、子どもが喜ぶおもちゃがある。「ここはさまざまな人が集まれるスペース。誰でも気軽に立ち寄り集い、心がほっとする場になれば」と思い、「コミュニティスペースとしてもオープンした」と話す。

「農業」と地域の「コミュニティ」という一見縁の遠そうな2つの分野だが、NPOの仲間と共にこの2つの分野をつないで新たな価値づくりを挑戦している。『社会に出られなくなった方や障がいのある方などさまざまな人が関われるようたくさんの仕事を見出さなければならぬ』と思う。目指すのはありがとうファームのブランドではなく、人と人が関わる中で生まれる地域コミュニティブランド。地球にも人にも優しい食物、食べる事で幸せを感じてくださるお客様、様々な事情のある人も助け合って働き語らえるコミュニティ、この3つが循環するしくみが新たなブランドの価値につながると信じて魅力的な品物を作っていきます」と、今後の目標を語る。

雲英さんの農業の原点は、世界の環境と飢餓問題。大きなテーマの中で自分ができることを考え、辿り着いたのが有機農業だった。身近にある化学物質の過剰摂取が原因で体や心の不調を抱えている人が多いのを感じ、「有機栽培で美味しいだけでなく、抗酸化力や栄養価が高く病気になるににくいといった科学的な裏付けも示せるような作物を目指している。『食で幸せを感じたい。病気にはなりたくない』と、思っている方は多い。そんな方に喜んで食べていただけるものを作りたい」と語る。

また、雲英さんはNPO法人アースアズマザーの農と福祉で持続可能な地域コミュニティを創造する理念に共鳴し、さまざまな活動を行っている。会社の元事務所はまるで古民家カフェのような空間。巨大な木の根こやさまざまな本、子どもが喜ぶおもちゃがある。「ここはさまざまな人が集まれるスペース。誰でも気軽に立ち寄り集い、心がほっとする場になれば」と思い、「コミュニティスペースとしてもオープンした」と話す。

第5回目は、神岡町西にある『ありがとうファーム』をご紹介します。社長の雲英顕一（きりけんいち）さんにお話を伺った。

ありがとうファームでは、野菜や自家製の味噌などを栽培から販売まで一貫して行っており、販路は都会の高級スーパー、個人客、地元のスーパー等とさまざま。ありがとうファームの野菜は味が濃く美味しい、元気が出ると、全国にファンも多い。今回はファンが増えつつある『ありがとうファーム』のブランドの秘密について迫る。

雲英さんは、東京で生まれ育ち、会社員で勤めながら週末農業をしていた。その後退職し、千葉県で就農。2011年の震災を機に有機農業を継続するため、飛騨に移住した。

雲英さんの農業の原点は、世界の環境と飢餓問題。大きなテーマの中で自分ができることを考え、辿り着いたのが有機農業だった。身近にある化学物質の過剰摂取が原因で体や心の不調を抱えている人が多いのを感じ、「有機栽培で美味しいだけでなく、抗酸化力や栄養価が高く病気になるににくいといった科学的な裏付けも示せるような作物を目指している。『食で幸せを感じたい。病気にはなりたくない』と、思っている方は多い。そんな方に喜んで食べていただけるものを作りたい」と語る。

また、雲英さんはNPO法人アースアズマザーの農と福祉で持続可能な地域コミュニティを創造する理念に共鳴し、さまざまな活動を行っている。会社の元事務所はまるで古民家カフェのような空間。巨大な木の根こやさまざまな本、子どもが喜ぶおもちゃがある。「ここはさまざまな人が集まれるスペース。誰でも気軽に立ち寄り集い、心がほっとする場になれば」と思い、「コミュニティスペースとしてもオープンした」と話す。



▲事務所を改築し、コミュニティスペースに生まれ変わった。興味深い本が多くあり、大きな木の根の後ろはキッズスペースになっている。



▲近隣の福祉サービス事業所スペースで障がいのある方の作業として1枚6円という値で商品のラベル貼りを委託している。



▲濃厚なトマトをギュッと閉じ込めた有機栽培トマトジュースは、箱買いのリピーターもいるほどの人気商品。

人口の動き (3月1日現在 住民登録人口)

男	女	計	世帯数
11,672	12,501	24,173	8,871
出生	4	転入	21
死亡	36	転出	42

消防の状況 (2月28日現在)

	火災	救急
飛騨市	1	174
その他 (管外出動)	0	0
前月比	0	79

交通事故の状況 (2月28日現在)

	人身交通事故		物損交通事故
	件数	死者 傷者	
本年累計	2	0 2	98
昨年同期	6	0 15	105
増減	-4	0 -13	-7